

安全な越谷吉川線の道路を

飯島 正義



問 昨年6月議会、中央中南側の越谷吉川線に信号機設置を求める会から「押しボタン式信号機と横断歩道の設置を求める請願」が提出され、全員賛成で採択されました。その後の経過と計画についてお聞きします。

答 今年7月5日に吉川橋から吉川交番までの県施工区間が4車線に供用開始されるので、その後の交通量を調査したうえで改めて要望します。

◆障がい者等に配慮した東口駅前広場工事を

問 吉川美南駅東口駅前通り線から駅前広場までの工事が行われています。駅前にはパイプガードがあり、歩道は砂利道で車椅子の移動は困難です。見解をお聞きします。

答 駅前広場を含め歩道に電線共同化工事を行っています。一部舗装がされていませんが、今年度中に舗装を実施します。工事期間中は駅利用者の方々の安全を考え、高齢者、障がい者の方の通行に配慮し、案内標識の設置や誘導員の配置等を行い、工夫しながら工事を進めます。

ごみ処理施設更新事業等で 市の分担金1.5倍、見直しを

遠藤 義法



問 資源環境組合の第一工場ごみ処理施設更新計画は、現在1日800tの焼却能力を720t、工事費を715億円としています。吉川市の分担金は毎年引き上げられて、29年度には今年度の約1.5倍、7億円近くになる見通しです。環境負荷を減らし、事業費減のためにも720tの施設規模を減らすなど見直すべきではありませんか。

答 人口減、ごみ減量化を考えれば720tの施設が必要か、資源環境組合で訴えてきました。財政問題もあり、基金(180億円)がこの額必要ななど、市の担当も入れて協議を行う予定です。

ごみ有料化やプラゴミ手数料も計画に示されており、資源環境組合のリーダーシップで5市1町同時に進める必要があります。

◆地方自治法改正の認識は

問 国会で審議されている地方自治法改正についての市長の認識をお聞きします。

答 国の権限強化よりも地方自治体の権限強化の方が、非常時の課題はスムーズにいくのでは。分権の根底にかかわり、具体的なことが曖昧なまま決まることが怖いと感じています。

最期まで自分らしく生きる 「終活」のすすめ

岩田 京子



問 昨今「終活」は未来を生きるための「ポジティブ」な活動といわれ、30代から始める方もいるようだ。財産整理、遺言書の作成、身の周りの整理、葬儀やお墓の準備、介護・医療の在り方、エンディングノート、人生会議等。市の計画の中に、成年後見人の中核機関について段階的に整備するとある。最終イメージと進め方についてお聞きする。

答 令和7年度の整備を目的に、社会福祉協議会が中核機関として機能することを想定している。引き続き関係機関が連携・協力し、段階的に機能充実を図ることが重要である。

問 人生会議は、自らが希望する医療やケアについて、医療機関・医療従事者・家族と話し合っ、方針を共有するための場だ。吉川市の人生会議の推進に関する現状は。

答 吉川松伏在宅医療サポートセンターに委託し、医師による人生会議の出前講座を実施している。令和5年度は5回開催で、延べ96名が受講。令和8年には331人を目標にしている。

問 11月30日は人生会議の日。アクションは。

答 情報を参考に人生会議の推進を考えたい。

様々な課題のある 太陽光発電の見直しを

吉川 敏幸



問 太陽光発電には、強制労働下で製造されている人権の問題、9割が中国産であり、日本の排出量削減の76%は経済活動の低下によるものという経済面の問題、各地にできている傾斜地のメガソーラーは土砂災害リスクを高め、パネルには鉛、カドミウム、ヒ素など有害物質が含まれ、むしろ環境が破壊されている問題、インターネットに接続されている場合、中国共産党や軍部に遠隔操作される懸念がある安全保障上の問題など様々な問題がある。そして、効果は日本のCO2排出量は世界の3%に過ぎず、2050年に脱炭素を達成できたとしても気温の低下はわずか0.006℃であり、ノーベル物理学賞受賞者2名を含む1931名の学者や専門家が気候非常事態は存在しないとしてクリンテル気候宣言に署名している。今後の設置への市の考えを伺う。

答 吉川市としては地球温暖化対策を進めていく中で、再生可能エネルギーの活用、中でも太陽光発電の推進というのは重要な施策であると考えている。また、吉川市が所有する太陽光発電施設はネットワークに繋がれていないので、サイバー攻撃を受けるという心配はない。